

基軸

「大阪都」構想
偽りの実態

③

大阪学院大学准教授 梶哲教

大阪維新の会の都構想

スローガンは「ワン・オ

オスカ」である。都構想

の意義として、「二重行

政」の解消と並べて語ら

れるのが、強力なリーダー

シップを確立すること

である。

維新の会

は、大阪経済

の再生に向け

て、国際的な

拠点都市とし

ての競争力強

化という成長戦略を描

く。そのために、大阪市

のもつ産業インフラ整備

などの権限や、都心の一

等地などの資産を「都」

に統合した、強大で集権

的な体制を構築しようとするのである。



その「都」での具体的

な取り組みとして、橋下

市長や維新の会が考える

カジノ誘致のような怪しげな経済政策である。

都構想が実現されてし

まえば、「都」が、自らの

役割とされたこれらの

大規模開発等に、大阪市

域から集めた財源等を優

政が失敗した原因を、

「二重行政」など役所の

体質のためとするよう

な、粗雑な総括の上に立

てられた政策に、成果を

期待できるかどうかは覚

束ない。そもそも、自治

ある。



なお、都構想とは別

に、維新の会は一貫して

道州制を提唱している。

しかし、道州制は都道府

県を廃止する改革案であ

り、仮に大阪都構想に続

けて道州制が実現するな

らば、大阪市も大阪都も

消滅してしまうことになる。

そのとき、維新の会

は、大阪経済再生のリー

ダー役をどこに託するの

だろうか。大阪都構想と

道州制の矛盾について、

まともな説明はされてい

ない。

(つづく)

「都」に集権し大開発推進

高度成長を夢見た経済政策

のは、一方では高度成長

の再来を夢見ながらも破

綻を重ねた大規模開発計

画の類（鉄道・高速道路

の建設や商業地の再開発

など）であり、他方では

先配分し、他方で、市民

生活に密着した事務を担

う特別区には、緊縮を強

く求めるようになること

は必定であろう。

しかし、大阪の開発行

体が民間企業のような優

勝劣敗の競争を演じると

いう発想自体が的外れで

あり、むしろ現代の課題

は、諸都市との共存共栄

を追求することのはずで

「ムダ遣い」と指摘される府の新たな道路・鉄道開発

路線名		区間	概算事業費
阪神高速淀川左岸線延伸		新御堂筋～第2京阪	4000億円
なにわ筋線		新大阪～JR・南海難波	2500億円
西梅田十三新大阪連絡線		西梅田～十三～新大阪	1350億円
カジノ 関連	JR桜島線延伸	夢洲～桜島	1700億円
	京阪中之島線延伸	夢洲～中之島	3500億円
	地下鉄中央線延伸	夢洲～コスモスクエア	540億円